



POINT 1

思・判・表

話の中心や構成を意識しながら考えを広げ深める授業デザイン

話すこと・聞くこと領域の指導事項において、目的に整合した言語活動を位置付けることで、必要な情報を端的に捉えながら、質問や意見など自分の考えに生かす姿につながる。

指導の効果をより一層確かなものにするためには、学びの必要感が大切な要素になると考える。必要感をもって相手の話を聞いたり、自分の考えを述べたりするためには、「相手」「目的」「場面や状況、条件」「方法」「評価」の5つの言語意識を明確にし、子ども自ら言葉と関わっていくことができるような言語活動の位置付けが重要になるだろう。言語活動とは指導事項を指導するための手段・方法の1つである。何かについてまとめる、話し合う、スピーチ、報告など、言葉を介した活動であるが、活動自体が目的になってしまう授業も少なくないと思われる。

そこで、言語意識の働きにつながるような言語活動を取り入れた実践例を紹介したい。

1 行事等と関連させた話し合い活動

曖昧な目的や、教師の一方的なテーマ設定で話し合い活動を展開するのではなく、子どもが「やってみよう!」「やらなきゃ!」となるように目的意識を明確にした活動を実践していくことが大切だと考える。

- 学級全体のために、運動会種目「○○」の作戦について話し合い、練習で試す。
- 保護者に自分たちの思いを伝えるために、学習発表会演目「○○」の成果や改善点について話し合い、本番に生かす。
- 卒業生のために、卒業を祝う会を行う意味を考え、出し物の案や方法について話し合い、計画を立てて企画を進める。

【言語意識を明確にした話し合い活動の例】

《話し合いの手順例》

- (1) テーマや目的、進め方の確認
- (2) 役割分担(司会・記録など)
- (3) 意見交流
 - ・提案 ・意見／質問 ・反論 など
- (4) 考えの共通点や相違点の整理
- (5) まとめ・今後に向けて



		○○(学年・運動会)○○(学年)作成会議		班 名前
テーマ				
●話し合いの「めあて」(2分間)	●今日の話し合いの「きだい」のかくにん(1分)	●「いあん者(自分)」自分の考えを書く(5分間)	●話し合いの「めあて」(2分間)	●記録者()
●自分の「ていあん」を発表する(1分間)	●仲間の「ていあん」を聞いてメモする(5分間)	●意見の共通点・そうい点の整理(7分間)	●決定した○○をまとめる(3分間)	●「めあて」にたいするふり返り(2分間)
質問メモ				

【話し合い活動のワークシート例】

これらの例は、学級会などでも活用できると考える。ただし、国語科の指導事項に結び付けることをねらいとする場合は、言語意識を子どもと共有する必要があるだろう。そうすることで、子どもは必要感をもち、相手の話を聞いて感想をもったり、質問をしたりすることができ、指導の効果を高めることにつながるだろう。

また、話し合ったことを行事などで実践する機会を繰り返し設けることで、単発的な活動ではなく、自分たちの変容を実感できるような話し合いの在り方にもつながると考える。

こなす授業デザイン

足寄町立足寄小学校 教諭 程野 純貴



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

POINT 2

知・技

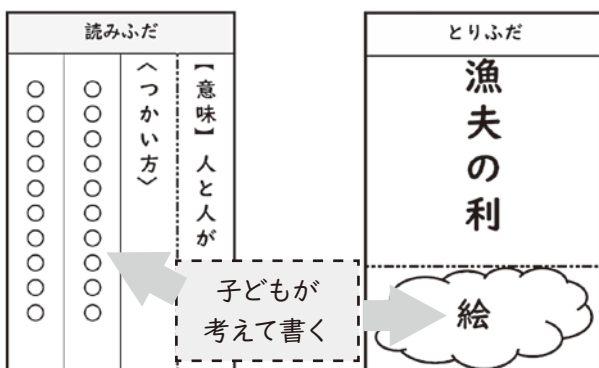
言葉に親しみを持ちながら、言葉の意味理解を図る授業デザイン

我が国の言語文化に関する事項の指導において、言葉への親しみや興味・関心を高める“仕掛け”を講じることで、伝統的な言語文化に関わる意味理解が一層促される。

短歌や俳句、慣用句などの伝統的な言語文化に関わる単元が始まる際、「今日から〇〇をやっていくよ!では、覚えて音読してみよう!」「この俳句の意味は〇〇だよ!覚えてね!」などと、教師主導で授業が展開される場合もあるだろう。これでは、子どもたちが言葉に親しんだり、興味・関心を高めたりすることができなくなり、言葉の意味理解にもつながらないと考えられる。

そこで、伝統的な言語文化に関わる意味理解を効果的に生み出していくための“仕掛け”の例について紹介したい。

1 楽しみながら意味を知るための“仕掛け”



【故事成語かるたの例】

《単元の流れ》

- (1) 単元を見通し、学習計画を立てる。
- (2) 教科書教材を基に故事成語について知る。
- (3) 本などで故事成語を調べ、かるたで紹介したい故事成語とその理由をメモする。
- (4) かるたの下書きを交流・推敲する。
- (5) かるたを作って遊ぶ。

2 関連的な指導を意識した“仕掛け”

学校や子どもたちの実態に応じて指導計画を工夫すると、伝統的な言語文化と書写に関する事項を関連させて指導することもできると考える。

《単元の流れ》

- (1) 単元を見通し、学習計画を立てる。
- (2) 教科書教材の短歌を音読する。
- (3) 本などでほかの短歌を調べ、お気に入りの短歌とその理由をメモする。
- (4) 書写の時間に書く。

金色のちいさき鳥のかたちして
いちようちるなり夕日のおかに
与謝野晶子

これらの授業デザインを「知識及び技能」と結び付けるためには、以下のような発問や問い返しを行いながら、お互いの考えを個や全体で共有する必要があるだろう。互いの考えの共通点や相違点に着目して考えをまとめることで、作品のもつ言葉の響きやリズムに気付くことができると考える。

どうして気に入ったの?

ほかの短歌と何が違うの?

ほかの人の理由と同じ?



〇〇という言葉が〜で…

〇〇のリズムが〜だから…